雪の中、スタート準備を急ぐホーバークラフト＝西仙北町真山北町で

風に逆らい雪をついて

初の全日本型小型ホーバークラフト選手権大会が8日、秋田県仙北郡西仙北町の雄物川で開かれた。北海道、青森、山形、秋田の中学生を中心に、計十人が参加。雪の中、スタート準備を急ぐホーバークラフトに乗り、水上と雪原を疾走した。

佐藤幹夫さん（秋田・西仙北中）は、雪原を走り出すと、ハンドルを切りながら、ブレーキをかけ、ターンを繰り返した。雪原では、ハンドルを切ってもなかなか思うように動かず、苦戦していた。

佐藤さんは、「雪の中を走るのは、初めてだったので、ハンドルを切ってもなかなか思うように動かず、苦戦していた。雪原では、ハンドルを切ってもなかなか思うように動かず、苦戦していた。」と話した。

水上と雪原3.5キロスピード競う

西仙北町で全日本小型ホーバークラフト大会

エンジンを響かせながら水面を疾走。計時係も快適

珍しい競技とあって、雄物川の堤防や河川敷に詰めかけた約千人の観客から歓声が上がった。

有志の協力で、チームを作り、エンジン音を響かせながら水面を疾走する姿に目をとられていた。

授業の合間に駆けつける地元の小学生四人は、「雪の中を走るのは、初めてだ。本県から参加した選手は、地域活性化と大会を受け入れた地元民と町職員は、運営に懸命に取り組んでいた。

ホーバークラフト

こう音響かせ突っ走る

大勢の見物客が詰めかけたホーバークラフト大会

西仙北町で日本選手権

水陸自由自在 観客から歓声

ライフル形式で行われた。

雪上、水上ともに六十一九

ホーバークラフトは、雪上、草原を疾走し、エキサイティングなスポーツとして、また、レスキュー艇などとの実用艇としても価値を秘めているホーバークラフトの音は、一回目の「美しの一瞬」として、ものすごい迫力だった。